

## 「私がみた明智光秀」

成安造形大学前学長 木村至宏先生講演要旨

平成22年4月18日

下阪本市民センター

明智光秀の関連年表から、光秀と坂本との関連は深く、坂本城とともに光秀=天海説もあり比叡山延暦寺との関連も伺え、また坂本には光秀の刀を所有する天田氏もいる。

従来から、儒教の教えとして主に対する謀反への反発から、明治時代になっても光秀の評価は悪い。しかし光秀は文武両道を兼ね備えた人物で、戦死した兵士のために西教寺に供養米を寄進するなど、上下の差別をしない人物で、比叡山焼き討ちにあたっては信長をいさめたという記録が「天台座主記」にあり、正義感の強い、心の優しい人物であったとされる。

また亀岡では「光秀公」と呼称され、坂本にも「明智光秀公顕彰会」があり、ここ下阪本でも何か光秀を称えるものを計画すべきではないか。

坂本城の復元には、山城に比べて平城の復元は困難であり、また城の構造の判明が必要である。NHKで坂本城の外観が放送され、これらを含めて天主の構造がどうであったかを調べ、現世代で無理であれば次世代へ引き継ぐようにすべきである。

また坂本城復元にあたっては、文化と経済とは両輪として進めるべきであることを訴えるべきである。

以上文責 梶原大義